

事業報告書



特定非営利活動法人 W i N G-路をはこぶ

the Way Into the New Generation !

W・I・N・G !

2013 年度

存在意義とは・・・

社会福祉法人に対する風当たりが強くなっています。福祉制度が徐々に整備されるなか、社会福祉法人がそれらを設立した先人たちの過去に学ばず、単に福祉制度に基づく施設運営のみの現状に甘んじており、法人税免除などのメリットを受ける必要があるのか、という議論です。制度に基づく施設運営なのであれば、株式会社が参入してどこが問題か、との声が日増しに大きくなっています。

このため、これまでの社会的特権を維持するために、社会福祉法人に地域・社会貢献活動が義務化されようとしています。まさしく噴飯ものの議論です。社会福祉法人の活動そのものが本来、地域・社会貢献活動であるはずですが、社会福祉法人にその使命を思い出させねばならないとは…。あるいは、かつては制度外だった活動が制度化された今、その活動にのみ従事することは否定されるものなのか。特権は、その活動が制度の内か外かの問題とは関係ないのではないか…。

しかし、NPO 法人も同様です。制度化された活動に従事している限り、収入は安定します。しかし、制度化された活動に自身の活動を限定するのであれば、行政の下請け機関との謗りは免れません。常に視野を広げ、支援が必要な人々がいれば、それをどのように支援するのか、考え、行動することがまさしく NPO の存在意義です。ところが、仮にそれらの活動が制度化された時、NPO はその活動ではなく、別の活動に新たに注ぐ人的資源、経済的余裕はあるのでしょうか。社会福祉法人であれば、その免税メリットによって、それらを確保しているはずだというのでしょうか、活動範囲を広げるなど組織の活性化に苦悶するのは、社会福祉法人や NPO 法人に限らず、どこの組織も同様です。

一人ひとりのスタッフがどのように法人の存在意義をとらえ、その活動にどう身を投じるのか、今一度、自身の胸に真剣に問い直す必要があります。それこそが、重症心身障害者の地域生活支援という「職」を選択した者の使命とも言えるでしょう。その“問い直し”を避けるのであれば、次第に社会から“退場”を迫られる社会福祉法人の後を我々も追うことになりかねません。

特定非営利活動法人 W・I・N・G - 路をはこぶ
代表理事 菅野 眞弓

～ 目 次 ～

活動報告

ホームヘルパー派遣事業	4
国際交流事業	4
地域交流事業	6
映画	6
フリーマーケット	7
“Tamariba”コンサート	9
“Tamariba”クラブ	10
講座	12
グループホーム準備施設“もくもく”	13
成年後見人	13
被災地支援	14
パラム・クム	14
galerie“見る倉庫”	21
スタッフ採用	22
医療的ケア	23
2014 年度への課題	23
社員総会の開催状況	24
理事会の開催状況	24
監査報告書	26

事業期間

2013 年 4 月 1 日 ～ 2014 年 3 月 31 日

事業の成果

《非営利活動》

【ホームヘルパー派遣事業】

重度訪問介護の派遣時間数は、前年度と比較して微減しています。派遣希望はありますが、新たな要望に応えるスタッフの確保が困難なためです。

一方、利用者さんがグループホームへ転居し、それらの利用者さんの派遣時間数は増えています。2012 年度からスタッフの労働環境と整えるという観点から、夜間ケアについては一定程度制限を行っていますが、依然、夜間ケアに対するニーズは高いものがあります。

また長年関わる派遣先からは、派遣曜を増やしたいとの要望も出ています。御家族、特にこれまでケアの中心となってきたお母様が働きに出るケースが多く、当法人で対応できない場合には、他事業所の利用も勧めてはいますが、新し事業所を探すのが困難であるなどして、なかなか複数事業所の利用は実現していません。一方で、進行性の病気を抱える利用者さんのなかには、多くの事業所を利用することで、生活を維持されている方もおられます。単独の事業所で多くの時間を支援することが難しいなか、複数の事業所利用には、事業所間での“連絡調整”という課題を解決する必要性が生じます。

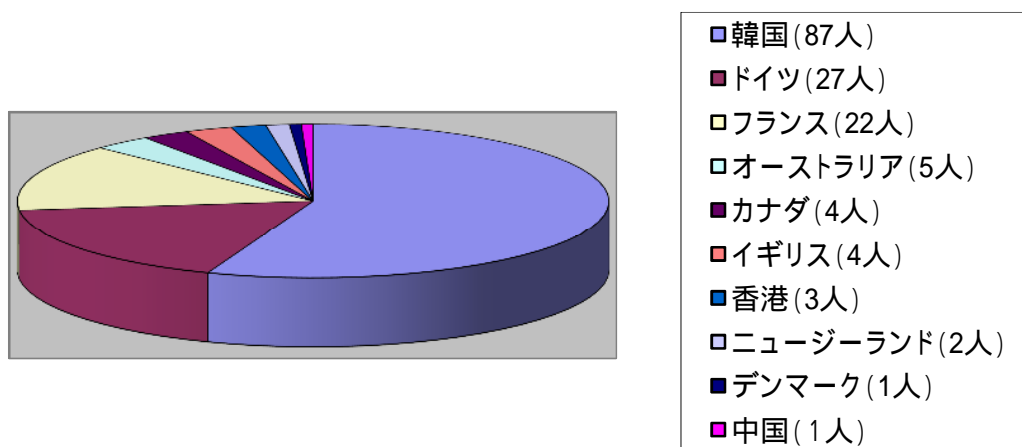
居宅介護、移動支援については、前年度と大きな差はありません。

【国際交流事業】

ドイツの日独平和フォーラムからの国際交流スタッフの受け入れは4期目です。過去最大規模の5人（女性4名、男性1名）を受け入れました。2013年度は彼らを含め、計17名（韓国11名、ドイツ5名、フランス1名）が活躍しました。

前年度同様、韓国のワーキングホリデー協会（韓国は民間会社が経営）や、上記のドイツの団体を通じての来日、就労が大半となっています。

これまでの外国人スタッフの出身国（2000年～2013年度）



ドイツの団体を通じた来日の場合、適用する規則はドイツのものを準用することになっており、休日取得の感覚などが日本人スタッフとは大きく異なり、摩擦がないわけではありません。また年齢も高校卒業後すぐの来日という18～19歳が大半です。



介護人材不足の解決を図ろうと、政府は外国人実習制度において介護分野での外国人受け入れを行おうとしています。地方において介護人材の不足は顕著ですが、日本人が介護分野への就職をためらう、避ける原因の解決にはなりません。おそらく、実習生の出身国は、中国、ベトナム、タイ、フィリピンなどアジアの国々と想定され、

福祉の仕事の社会的地位が現状のままで実習生の受け入れを行うことは、逆に日本人の福祉職離れを加速してしまうのではないかと不安が拭えません。安い労働力が行う仕事という評価が定まってしまうと、自国人で労働力を賄うことができず、シンガポールのほぼ100%、台湾の約30%のようにもなりかねません（施設労働者に占める外国人労働者の割合）。自国人が避ける仕事はいずれ外国人も避けます。

私たちの経験上、外国人を採用するには、現場でマネジメントできる人材が確保できるかどうか大きな課題となることは自明です。労働力の確保だけに目が奪われ、そのマネジメントを既存スタッフに任せても、そのスタッフが疲弊し、さらなる退職につながっていくことは避けなければなりません。

地域交流事業【フリースペース Tamariba (たまりば)】

Tamariba の地域での位置づけを向上させ、重症心身障害者と地域との接点を増やそうとの試みに、これまで以上に取り組みました。

フリーマーケットでは、子供のおもちゃを自主的に交換する「かえっこバザール」(<http://kaekko.exblog.jp/>)を導入しました。地域団体の協力を得て、フリーマーケットを共催の形で行い、子供たちの歓声が響くことに成功しました。

キッズクラブやコンサートも開催回数を増やし、内容を充実させました。法人関係者だけでなく、地域の方々の参加も増えてきています。

課題は、取り組むスタッフを固定化させず、多くのスタッフがどう参加可能とするかにあります。スタッフは活動に関心を示すものの、日常の重症心身障害者への支援に加えて、これらの活動を行うため、一定程度の気力や体力、モチベーションが欠かせません。スタッフ全員に求めることは過大な負担を課することになる恐れがあるため、現在の取り組みは希望するスタッフが行うという形式を取っています。しかし、より本格的な活動を推進するためには、より多くのスタッフが参加し、活動に専念することも求められることとなります。そのための時間と、利用者さんへの直接支援の時間との調整、バランスが従前からの課題となっており、2014 年度はこの課題をどう解決するのか、検討の第一歩としたいです。

映 画

月 1 回の上映を継続しています。施設内行事の域を越えることが難しい状況は続いていますが、チラシ宣伝の効果もあり、近所の子供さんや御家族が足をはこんでくださっています。

現在は、いわゆる商業映画の上映を行っていますが、今後はジャンルを変更してみることも検討すべきでしょう。DVD やネットでも自由に映画が見ることができる昨今ですが、一方で、ドキュメンタリー映画などは見る機会になかなかめぐまれません。障害者問題などを取り上げたドキュメンタリー映画は、自主上映という形式を取らなければ厳しい状況です。ただ、規模としては小さいものの、上映を渴望する方々も一定数存在すると推測され、児童との交流に目が向きがちな私たちですが、“大人”へのアプローチも検討すべきだと思われます。

より「コミュニティシネマ」としての位置づけを明確にし、積極的に上映 PR

を行うことは依然として課題です。私たち人間が“消耗品”として存在するのではなく、個を大切にしたいと考えるのと同様、映像もまた消耗品としてではなく、文化のなかに位置づけられるような「Tamariba 映画」を創り上げたいものです。

2013 年度 Tamariba 映画鑑賞会での上映作品

4 月 20 日	アベンジャーズ
5 月 18 日	おおかみこどもの雨と雪
6 月 15 日	スカイフォール
7 月 20 日	食道かたつむり
8 月 17 日	シュガーラッシュ
9 月 21 日	アウトロー
10 月 19 日	ワンピース～ エピソード オブ ナミ
11 月 16 日	フライト
12 月 21 日	ドラゴンボール Z ～神と神～
1 月 18 日	ワイルドスピード 6
2 月 22 日	カルテット
3 月 15 日	長靴をはいた猫

フリーマーケット

今年度は 5 回のフリーマーケットを開催しました。特に、10 月、12 月は、地域の諸団体と協力し、児童がおもちゃを交換するイベント「かえっこバザール」を開催、会場もフリースペース“Tamariba”以外に、近隣の公園をお借りして、同時開催 2 会場制としました。


このため、出展規模が大きくなり、来場者数も増えると同時に、売り上げも増加しました。一方、売り上げが増加する出展者と、伸び悩む出展者を 2 極化する傾向も出現しつつあり、全体の売り上げ増が課題です。



一方、出店者については、ほぼ毎回同じ顔ぶれとなっており、多様化は今後も課題です。地域の学童保育所や少年野球などバザーを開催する可能性のある団体と合同開催を呼びかけを検討すべきでしょう。

2013 年度フリーマーケットの開催状況


開催日	参加ブース	イベント	売上平均
4月21日	10 (5) = 15	<p>ストローモビール</p> 	6804 円(最大 15000 円)
6月23日	12 (8) = 20	<p>楽器作り 演奏会</p> 	6646 円(最大 11000 円)
8月25日	8 (6) = 14	<p>工作</p> 	6014 円
10月20日	7 (8) = 15	 <p>ビー玉アート (プラバン) かえっこバザール</p>	5146 円(最大 13000 円)
12月15日	19 (5) = 24	<p>南海公園 かえっこバザール</p>	5570 円(最大 16500 円)

		子供ハローワーク 	
--	--	--	--

コンサート

今年度は4回開催しました。特にジャズを3回取り入れるなどこれまでとは違った嗜好の音楽となりました。本格的なジャズコンサートということもあり、PRにも力を入れました。ジャズジャンが多い関西ジャズガイド「WAY UT WEST」に広告を掲載したり、チラシも積極的に配布しました。その甲斐あり、徐々に法人外部からの観客も徐々に増えています。音楽を楽しむという行為は、障害の有無に関わらず、万人に等しく与えられたもの。今後もPR活動に力を入れ、音楽を楽しむという行為を通じて、地域の方々と重症心身障害者がつながる「Tamariba コンサート」を発展させたいと考えています。

2013年度コンサート開催報告

開催日	コンサート名	観客数	備考
2013年6月1日 	タマリバコンサート ジャズボーカリスト 東かおるコンサート	3組(5名)	出演：東かおる(ボーカル)、Jesse Forest(ギター)、野々村明(トランペット) 優しいジャズボーカルの和やかな雰囲気での演奏でした。

<p>2013 年 8 月 3 日</p> 	<p>タマリバコンサート ジャズライブ</p>	<p>8 組(約 10 名)</p>	<p>出演：岩田直樹(クラリネット)、大島一郎(トロンボーン)、藤井信之(バンジョー) 演奏スタイルはニューオーリンズジャズ。チンドン屋のように楽器を持ちながら会場を練り歩き、活気溢れる演奏でした。</p>
<p>2013 年 10 月 26 日</p> 	<p>タマリバコンサート ジャズボーカリスト 溝口恵美子コンサート</p>	<p>20 組(約 30 人)</p>	<p>出演：溝口恵美子(ボーカル)、大野浩二(ギター)、萬恭隆(ベース)、有田真大(ピアノ)、中野圭人(ドラム) 5 人編成でジャズボーカルを中心に据えて、スタンダードナンバーを演奏。落ち着いた雰囲気の演奏でした。</p>
<p>2014 年 2 月 1 日</p> 	<p>タマリバコンサート ジャズボーカリスト 東かおるコンサート</p>	<p>14 組(約 20 名)</p>	<p>出演：東かおる(ボーカル)、Jesse Forest(ギター)、野々村明(トランペット) 6 月と同じ編成で登場。前回の演奏を経験し、場に馴染んだ様子でした。</p>

Tamariba クラブ

地域の子供たちとの交流を図る Tamariba クラブは 7 年目を迎えました。今年度は、6 回のクラブを開催しました。

スタッフにおいて、担当希望者が多く、回ごとに担当者を分けるほどでした。地域の子供たちと利用者さんと結び付ける場として貴重な活動になっていますが、スタッフの担当だけでは、開催回数に限界があり、ボランティアの活用は引き続き課題です。スタッフのみではバリエーションに限界があり、一般業務との兼ね合いもあり、学生等の力を利用することも検討する段階に来ています。

2013 年度たまりばクラブ

実施日	企画	一般参加	通所者
5 月 25 日	<p>ストローモビール～ストローでおもちゃをつくろう</p> 	13 人	6 人
7 月 27 日	<p>えんにちであそぼう</p> 	12 人	10 人
9 月 28 日	<p>タマリバ留学 - 韓国編</p> 	7 人	6 人
11 月 30 日	<p>かみねんどで工作しよう</p> 	14 人	6 人

1 月 25 日	節分！おにまつり 	16 人	7 人
3 月 29 日	おもしろ実験 ラムネをつくろう 	23 人	3 人
	合計	85 人	38 人

Tamariba 講座

講座

2 回の開催に止まりました。
外部の講師に講座を依頼することが、若いスタッフにとっては、大きな負担感を伴うようです。講師を選び、講師と連絡を取り、講座の趣旨を説明し、講座の開催を実現させることは、若いスタッフにとっては大きな経験となるものですが、ためらう部分もあったようです。今後若いスタッフたちの奮起が求められます。



開催日	タイトル	講師
7 月 31 日	頭のケア講習会	幸下幸子
10 月 30 日	ドイツ研修報告会	スタッフ・伊藤智史

【グループホーム準備施設もくもく】

グループホーム「ことのは」が2012年11月、大正区においてスタートしました。重症心身障害者7名が新しい生活をスタートさせ、私たちがヘルパーを適宜派遣し、新しい生活を支えています。スタッフの配置上の制約もあり、他事業所にもヘルパーを要請して徐々に利用を始められています。

一方、「もくもく」については、一定の役割は終えました。廃止あるいは別の目的使用などが考えられます。2014年度は新たな活用方法がないかどうか検討を行います。

【成年後見人】

スタッフ1名が、受任していた2件の後見と1件の保佐の計3ケースのうち、障害者1名が11月22日、高齢者1名が3月30日に逝去しました。

障害者（西成区）は、腎不全で亡くなりました。医師から再三再四、飲食の内容、量について指導、注意を受けていましたが、体調管理が困難でした。死亡後、複数の親類縁者に連絡を取り、鹿児島から来られた親戚に遺骨を預けました。葬儀等の手続き一切は保佐人が行いました。

本人には2000万円相当の財産がありましたが、法定相続人がおらず、遺言もなかったため、司法書士に依頼し、相続財産管理人の選任手続きを行いました。

精神障害・身体障害を抱えたうえでの、地域での生活は非常に大変でした。行政の支援も「支援」という名に値しないもので、精神障害者の置かれる社会状況の厳しさを改めて教えられたケースでした。また、本業を別に持つ保佐人個人が支援を継続するにはあまりに労力を大きく、法人後見の必要性を裁判所が理解すべきケースでもありました。

一方、健康状態が一進一退であった高齢者（吹田市）は、誤嚥性肺炎で入院しました。もともと腎臓機能が低下していたこともあり、闘病生活は短いものでした（約2ヶ月半）。

入所施設の対応はドライなものでしたが、一部の職員が通夜・葬儀に足を運んでくれたため、後見人1人が見送るという事態は避けられました。

葬儀の導師が、偶然、被後見人の奥様の導師も務められた方で、お骨は京都の大谷本廟に納骨することとしました。財産は約200万円ほどあり、これも相続財産管理人の手続きを行う予定です。

別の高齢者（東住吉区）の状態は、落ち着いています。面会時に後見人との認識はありませんが、健康状態に大きな問題はありません。ただ、認知症の症状が徐々に進んでおり、被害妄想のような言動は継続しています。

施設側と話し合い、ヘルパーを利用した外出を試みています。最初は抵抗感を示していましたが、最近ではヘルパーとの外出にも慣れ、楽しみにしている場合もあると施設から報告を受けています。

【被災地支援】

東日本大震災（2011年3月11日発生）の被災地支援を継続し、岩手県に前年度同様スタッフを派遣しました。

「東北の重症心身障害者と“路”をつなぐ」をスローガンとしました。今後活動を継続するにあたって、立ち返ることのできる、判断の基準となる、スタッフに対して説得力のある「言葉」を設けようとのスタッフの発案でした。

私たちが支援の拠点としている「NPO 法人結人(ゆいっと)」（岩手県宮古市）での活動は継続しつつ、被災地の重症心身障害者にこれまで以上に接触し、関係を構築していこうと派遣スタッフは積極的に活動を行いました。

この結果、宮古市の「重症心身障害児（者）親の会ココロつなぐ会」（中村美華子会長）との継続的な対話が実現しました。同会の新年会にスタッフを派遣し、スカイプで互いの様子をパソコンで確認しながら同時開催するなどの試みを行いました。

また、被災地支援の一環として、被災地の障害者施設の授産製品の買い付けも行いました。スタッフが直接施設を訪ね、買い付け交渉し、私たちのフリーマーケットや別団体主催の支援イベントに出店して販売を行いました。

さらに昨年度同様、沿岸部を障害者とともに歩き、障害者が住める街づくりを訴える「みちのく TRY」にスタッフが参加し、関係構築にも努めました。

【パラム・クム】

今年度は2組を受け入れました。いずれもキンバリークラーク社からです。昨年度に続き、ソウルから韓国人の研修生を受け入れましたが、さらにアメリカ本社からも職員が8月に来られ、2回の実施となりました。

4月16日~19日

Tour program for elderly oral care

20130412

16 th Mon April	11:00	to Japan KE723	
	14:00	meet in NAMBA ORIENTAL HOTEL	
	15:00	Tour of heavily handicapped persons' facility. experience and exchange with handicapped persons. 社会福祉法人ゆうのゆう デーセンター夢飛行 大阪市西成区岸里東1-5-25 06-6659-6612 http://www.yourwing.org interpreter staff in the facility	
17 th Tue	11:00~13:00	Tour of elderly facility who stays. you will see their oral care in day time. 社会福祉法人豊中愛和会 ローズコミュニティ・緑地 06-6866-2941 http://www.aijinkai.or.jp/toyo_aiwa/ interpreter Mr.Oh	9:30 待ち合わせ 10:00 ホテルロビー
		Free time	
18 th Wed	10:00~17:00	BARRIER FREE 2013 バリアフリー2013 INTEX OSAKA インテックス大阪 interpreter Ms.Kwon	9:00 待ち合わせ 9:30 ホテルロビー
19 th Thu	11:00~ 10:00 ホテルロビー	Tour of elderly facility who stays. Karan you will see their oral care and make an interview with a dentist. they have their own oral care group among care-staff. you can ask them about it. Japanese standard elderly facility. also for people who don't have much money. about 150 persons. 特別養護老人ホーム 花嵐 大阪市東住吉区矢田 6-8-7	

		http://www.karan.or.jp/ interpreter Ms.Kwon
	15:00	to the KANSAI International airport
	19:45	to Korea KE2728

Kimberly-Clark of Korea Attendee

Name	Position	phone number
Kim JeongKyung	Project scientist (project leader)	
Lee HwaJun	Project scientist	
Heo Jin	Project scientist	
Park HyoungKun	Project scientist	

Hotel

NAMBA ORIENTAL HOTEL (なんばオリエンタルホテル)

大阪市中央区千日前 2 - 8 - 17

「パラム・クム」キンバリークラーク受け入れ まとめ

【総 括】 韓国企業社員 4 名に対するショートプログラムであったが、夢飛行での体験プログラムを初めて実施したほか、主目的であったアイス口腔マッサージの現場視察、歯科医師へのインタビューが実現、また福祉関連企業の見本市も訪れるなど、短期間で相当程度の収穫を与えることができたのではないかと。また、アレンジに要する時間、労力も少なく、参加費 10 万円は当方にとっても満足できるものであった。

キンバリークラーク社（以下、キ社）は、新たに市場に投入する口腔ケア製品を開発中で、訪問者 4 名は研究員である。昨年もパラムクムに参加したが、プロジェクトメンバーの入替（リーダーは変更なし）により、メンバーの新製品、市場の現状に対する意識の共有化を目的のひとつとして来日した。研究員はいずれも複数のプロジェクトに参加しており、来日によって新製品開発のアイデアも得たいようであった。

昨年の来日時、口腔ケアのひとつである「アイスマッサージ」に多いに関心を示し、今回はマッサージの様子を直接見たいとの意向であった。

キンバリークラークは米国系外資企業であり、英文メールでのやり取りはストレスなく行うことができた。



(左から Park Kim Heo Lee の各氏)

【全体プログラム】

前回の反省に基づき、ゆっくりとした日程とした。「一日に一つ」のプログラムである。前回は、「一日に二つ」のプログラムを入れたため、消化不良であったようである。

【夢飛行】

パラムクムの目的の一つは、我々の法人運営の施設において、利用者である重症心身障害者との交流の時間を持ち、異文化間でのケア違いを体感しながら、ケアだけでなく、福祉のあり方を考えてもらおうとの試みである。

今回の参加者は、福祉関係者でなく、あくまで製品開発に関心を寄せるものであったが、2回目の参加であることや、プログラムの本来の目的を伝えることで、体験プログラムへの参加を了解いただいた。

事前に了解いただいた利用者さん2名に対して、直接飲み物を介助する体験を行った。また送迎車に添乗し、利用者のご家族との面会、またケアホームでの手伝いといった体験を行った。

日頃、“物”と向かい合う研究員だけに、直接的な関わりは貴重な体験だったようで、1日目終了後、「良かった」「ご家族の笑顔が印象的だった」などの感想をいただいた。利用者への口腔ケアに対しては、用具のみならず、頻度やケアにおける注意すべき点などの質問が相次いだ。

ただし一方で、同じ利用者さんと研修・実習生との関わりで言うと、エール学園等の実習では原則として実習生による利用者さんへの直接的ケアを認めていない点や、エール学園からの実習費は100%「先



生役」である利用者さんに還元されるのに対して、「パラム・クム」では今のところ研修費による収入は全て「法人の独自財源」としている点など、取り組み間での「整合性」について課題が残る。

【ローズコミュニティ】(豊中市)

韓国からの訪問看護師の見学で利用させていただいた複合施設(老人保健施設・特別養護老人ホーム・障害者生活介護等)。口腔ケアに対する特別な取り組みは行っていないが、標準的なケアの位置づけとして見学を用意した。

11時過ぎから直接現場を訪ね、施設の概要、口腔ケアの概要、さらに食後の口腔ケアの実際を見学した。洗面台において行う標準的なものであったが、初参加の3名は日本の高齢者施設での様子を直接見学し、参加者同士でケアの標準点の位置づけを確認できたようであった。

【バリアフリー2013】(インテックス大阪)

東京の福祉機器展と並び、国内最大規模の展覧会である。開催の情報提供を行ったところ、特に参加の希望があり案内した。事前に登録を行ったが、特に入場がスムーズになるわけでもなく、必要性は感じられなかった。

午前中は通訳と田代の2班に2名ずつ分かれて、興味関心の主軸である口腔ケア関連のブースを観て回った。商品サンプルや商品パンフレットに興味深そうに眺めながら、商品の用途や使用方法、韓国での販売代理請負は可能か？などの積極的な質問も多く見受けられた。口腔ケア用品以外では、皮膚に直接触れるもの(おむつやドレッシングテープ類)、消毒関連商品に関心を示していた。

お目当てのものはほぼ午前中で見終わり、午後からは展示会全体を一通り眺めて帰途についた。

【花嵐】(東住吉区)

前回訪問した特別養護老人ホーム(150床)。食前の口腔ケアとして、アイスマッサージを実施しており、そのケアの実際を見学することが、今回来日の主目的であった。

事前に質問状(別紙)をFAXし、担当者にも再訪問が相手側の強い希望である旨を伝えておいたため、準備万端、非常に丁寧な説明をしていただいた。施設に定期訪問している歯科医の1名は質問状に対して文書で回答いただき、英語の参考文献リストも付けていただいていた。製品化に際して、データの根拠(アイスマッサージの効果)が求められるため、非常に感



謝された。

ケアの実際の場面では、高齢者 1 名（99 歳！）にお願いし、食前後のケアをすべてを見せていただいた。スタッフの説明は詳細かつ要領を得ており、申し分ないものであった。（当法人でも招待したい）。参加者は非常に満足していた。

【反省・今後】

福祉に関心のない方々へのプログラム提供としては、よくできたのではない。パラムクムの主眼は、利用者を知るきっかけの提供ではないが、製品の提供に介護の実際を知ることが必須であろうし、その体験を自国でなく外国で行ったことは、参加者のなかに何かしらの意味もつものを与えたであろう。

また施設の見学も通り一遍のものではなく、かなり丁寧に参加者の希望する口腔ケアの実践を見せていただけた。関係の維持に努めていた成果だけでなく、相手方の好意、努力はその準備の程にも表れていた。

バリアフリー展開催に合わせた誘致は、十分効果があるものと思われる。しかし、一度に参加者が集中すると、十分な体験プログラムの提供が困難となる。規模は小さくなるものの、各地で同様の展覧会は開催されており、事前に調べ開催に合わせ時期を分散させたプログラムの PR は効果的であろう。

同行をどこまで実施するか。ほぼ全日程同行したが、スタッフの負担は大きい。通訳に任せる方法もあるが、現在の通訳料は一般水準からすれば低額であるため課題である。また同行によって、当方の熱意を参加者、見学先に伝えることが可能である。通訳が同行するのであれば、語学能力を問わず、国際交流に関心をもつスタッフが同行することも視野に入れておいても良いだろう。案内に用いる車をレンタルやシェアリングとすると経費が嵩むことも課題である。

8 月 5 日～7 日

Tour program for elderly oral care

20130801

5 th Mon Aug.	9:15	At lobby in the Westin hotel
	10:00 ~ 16:00	Tour of elderly facility Karan you will see their oral care and make an interview with care staff. if possible, also with a dentist. they have their own oral care group among care-staff. you can ask them about it. Japanese standard elderly facility. also for people who don't have much money. About 150 persons.

		<p>特別養護老人ホーム 花嵐 大阪市東住吉区矢田 6-8-7 http://www.karan.or.jp/</p> 
6 th Tue	10:30	At lobby in the Westin hotel
	11:30 ~ 14:00	<p>Tour of elderly facility who stays. you will see their oral care in day time. also you can see handicapped person's facility. 社会福祉法人豊中愛和会 ローズコミュニティ・緑地 http://www.aijinkai.or.jp/toyo_aiwa/</p> 
	15:00 ~ 17:00	<p>ATC Ageless canter Japan's largest permanent exhibition hall related to health/welfare/caregiving. ATC エイジレスセンター http://www.ageless.gr.jp/index.html http://www.ageless.gr.jp/movie/movie_k.htm</p>
7 th	9:30	At lobby in the Westin hotel

Wed	10:00 ~ 12:00	Medical home Madoka Tennoji Very new elderly facility that is managed by Bennese care style. Bennese is a big and famous educational company in Japan. http://kaigo.benese-style-care.co.jp/home/m-tennoji/index.html
	12:30 ~ 16:30	Tour of heavily handicapped persons' facility. experience and exchange with handicapped persons. 社会福祉法人ゆうのゆう デーセンター夢飛行 大阪市西成区岸里東 1 - 5 - 2 5 担当：田代・久保 http://www.yourwing.org

Kimberly-Clark Attendee

Name	Position	
Stephanie Martin	Technical leader	
Kim JeongKyung	Project scientist	

Hotel : the Westin Osaka 大阪市北区大淀中 1 - 1 - 2 0 TEL 06 - 6440 - 1111

【galerie “見る倉庫”】

今年度は 2 回の開催でしたが、1 月よりアートに関心を持つスタッフが集まり、作家招致活動を開始。来年度 2014 年度はほぼ 1 年と通じて個展が開催される見通しとなりました。

一般的に市中のギャラリーはどこも集客に苦労しています。人通りの多い地域にあるのではない、galerie“見る倉庫”にとっては、PR は大きな課題です。ただ、地元となる岸里東周辺には同種のギャラリーが数か所あり、これらのギャラリーとの連携が今後の PR のカギとなりそうです。



4月15日～27日 上杉咲気個展～開けたり閉めたり

YKKに勤務する上杉さんは、ファスナーを用いたユニークな作品を展示いただきました。会場で作品を販売。数点が売れました。

9月2日～28日 アウトサイダー書展

重い障害を持った方々が、現代書家akiさんとともに取り組んだ「書」の作品の数々。この展示会をきっかけにして、「一番風呂」という作品は、地域のお風呂屋さんで販売する手ぬぐいのデザインにも採用されました。



【スタッフ採用】

マイナビなどを通じて12名を採用しました。

2013年度は、前年に引き続き、新卒採用市場の活発化に伴い、セミナー見学会への参加学生数が減少しました。このためセミナー見学会の開催回数を増やすのですが、他事業所も同様に増やす傾向にあるため、どこのセミナー見学会も一定数を確保することに苦労しているようです。

また男子学生の応募が減少しています。福祉という職業に対して、マイナスのイメージが浸透しており、特に男子学生の間では、福祉の仕事では結婚したら生活ができないという先入観が、福祉を就労の選択肢から除く原因となっているように見受けられます。セミナー見学会では、給与などの労働条件についても説明していますが、そもそも会場に足を運ぶ男子学生が少数です。

このため12名を採用しましたが、男性は2名のみ。同性介護を行う当法人としては、男子学生の採用がさし迫った課題となっています。

来年度は、これまで以上に男子学生の採用に力を入れる予定です。当法人が国際交流や地域交流、アート活動にも力を入れるという他法人にない活動を展開、多くの男性スタッフが継続的に活躍していることを積極的にアピールしていきます。

出身地は、これまで同様全国からとなりました。近畿圏はもちろんのこと、東京、徳島、福岡からも応募があり、採用となりました。

これらスタッフの研修では、今年度新たに理科の研修を取り入れました。医療的ケアが必要な利用者が多いなか、最近の学生は理科の授業を選択していな

いため、基本的な人体の知識に欠ける者が増えています。西淀川特別支援学校に依頼し、内臓の仕組みや位置、役割などを学習しました。

【医療的ケア】

登録喀痰吸引等事業者（登録特定行為事業者）として、スタッフの医療的ケアの研修を引き続き行い、認定特定行為業務従事者（特定の者対象）の認定の取得に努めました。

この制度が制定されて以来、従事者の認定を受けていないことを理由に医療的ケアの実施ができず、福祉サービスの利用を拒否されたというケースを聞きます。医療的ケアを制度的に認めることで、安全に福祉職が医療的ケアを実施するために設けられたはずですが、当初から懸念された事態が既に現出しています。

当法人でも今後、異動や新しい利用者さんが来られるたびに、実地研修を実施し、認定書を各スタッフが受ける必要があります。コスト的にも労力的にも果たしてメリットがある制度なのかと首を傾げざるを得ません。「事故があったらどうする」という視点の前に、「そのケアが行われず、その人の“生”が奪われたらどうする」という視点が来るべきでしょう。

2014 年度への課題

採用活動

男性の採用。重度訪問介護・居宅介護において新たなニーズに応えられるよう体制の充実。

フリースペース “Tamariba”

より一層の活用、PR 方法の検討、実践。

記録の整備

さまざまな記録（ヘルパー記録、イベント活動記録等）を省スペースで管理、保管する。

医療的ケア

医療的ケアを行うための研修を計画的に実施し、利用者さんのケア状態、新しい利用者、スタッフの異動などに備える。

社員総会の開催状況

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」

日 時：2013 年 4 月 10 日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：170 人

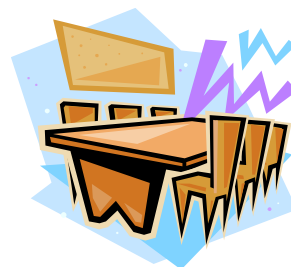
出席者数：150 人

議 案：第 1 号議案 新卒スタッフの採用

第 2 号議案 2012 年度決算

第 3 号議案 2013 年度予算

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。



名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」

日 時：2013 年 12 月 20 日（金）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：170 人

出席者数：135 人

議 案：第 1 号議案 被災地支援の継続

第 2 号議案 障害者総合支援法の施行に伴う対応

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」

日 時：2014 年 4 月 9 日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：180 人

出席者数：140 人

議 案：第 1 号議案 新卒スタッフの採用

第 2 号議案 2013 年度決算

第 3 号議案 2014 年度予算

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

理事会の開催状況

日時	出席者	議案	審議結果
2013 年 4 月 25 日	理事 6 人	2012 年度決算 パラムクム コンサート	全議案承認
5 月 24 日	理事 6 人	キッズクラブ フリーマーケット	全議案承認
6 月 25 日	理事 6 人	フェイスブックの取り扱い フリマ、コンサート Tamariba 通信	全議案承認
7 月 25 日	理事 6 人	フリマ、コンサート パラムクム	全議案承認
8 月 23 日	理事 6 人	被災地支援 インターンシップ コンサート	全議案承認
9 月 25 日	理事 6 人	被災地支援 メーリングリスト 記録システム	全議案承認
10 月 25 日	理事 6 人	被災地支援 採用活動 コンサート	全議案承認
11 月 25 日	理事 6 人	フリマ キッズクラブ コンサート	全議案承認
12 月 25 日	理事 6 人	被災地支援 フリマ 個別試験計画について	全議案承認
2014 年 1 月 24 日	理事 6 人	採用活動 個別面談 コンサート キッズクラブ	全議案承認
2 月 25 日	理事 6 人	内定者について 被災地支援	全議案承認
3 月 25 日	理事 6 人	被災地支援 2014 年度予算 フリーマーケット スタッフ交流会	全議案承認

監査報告書

監 査 報 告 書

2014 年 6 月 30 日

特定非営利活動法人 W・I・N・G 一路をはこぶ

代 表 理 事

菅野 真弓 様

特定非営利活動法人 W・I・N・G 一路をはこぶ

監 事

梁 英 子



私は 2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までの第十三期会計年度
における会計および業務の監査を行い、次の通り報告いたします。

1. 貸借対照表、収支計算書、財産目録について、法人の収支および財産の状況を正しく示しているものと認める。
2. 事業報告書の内容は真実であると認める。

以上